

ムーディーズがブラジルを格下げ

2016年2月25日

<格下げ>

2月24日(現地)、格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービス(以下、ムーディーズ)がブラジルの自国通貨建て長期債格付けおよび外貨建て長期債格付けを「Baa3」から「Ba2」に引き下げ、格付け見通しも「ネガティブ」としました。スタンダード・アンド・プアーズとフィッチ・レーティングスは既に格下げを実施しているため、今回のムーディーズの格下げにより主要格付会社のブラジルの格付けは全て投機的格付け水準になりました。

各格付会社のブラジル長期債務格付け

(2016年2月25日時点)

	自国通貨建て	外貨建て	見通し
ムーディーズ	Ba2	Ba2	ネガティブ
S&P	BB	BB	ネガティブ
フィッチ	BB+	BB+	ネガティブ

(出所)各種データを基に大和投資信託作成

<格下げの理由>

ムーディーズは格下げの理由として、ブラジル経済が低成長にとどまる中、債務状況が一段と悪化する恐れがあり、今後3年以内に公的債務の対国内総生産比率が80%を超過する恐れがあること、および、政治的な混乱が財政再建を困難にし、構造改革を遅らせかねないことを指摘しました。また見通しをネガティブとした理由について、政治・経済・財政の不透明性とそれらに起因するさまざまな潜在的なリスクが表面化した場合には、ブラジルの信用力が一段と悪化する可能性がある、としています。

<今後の見通し>

ブラジルは景気低迷と高インフレの中、財政の悪化が進行しています。政府と中央銀行は景気対策を後回しにして、財政健全化のための緊縮財政政策とインフレ沈静化のための高金利政策に優先的に取り組んできました。しかしながらルセフ大統領の支持率低迷や深刻な景気後退が続く中、政府と中央銀行は経済政策の軌道修正を始めました。まずレビ前財務相に比べて拡張的な財政政策に前向きなバルボザ氏が財務相に就任しました。政府は当初予算比234億レアルの歳出削減案を提案し財政改革方針の継続を発表した反面、プライマリー・バランス(基礎的財政収支)の目標値0.5%(対国内総生産比)は、歳入見込みが不透明であることを理由に、▲1%程度の赤字になりかねないとの幅を持った解釈の必要性を訴えるなど、財政再建のスピード感に低下が見られます。一方、中央銀行は、1月の金融政策決定会合における利上げ見送りにも見られるように、インフレ抑制よりは景気実勢にも配慮したスタンスに変化しました。

このような政策の軌道修正には、レビ前財務相の緊縮政策に否定的だった議会からの抵抗が和らぎ、経済運営の手詰まり感が解消される期待感がある一方で、手綱が緩まりかねない財政・金融政策運営として市場の信頼を損なう可能性があり、注意が必要と思われます。急激な市場の変動については、ブラジル中央銀行は通貨スワップなどによる米ドル売りレアル買い介入を、財務省は国債のバイバック(買い戻し)をそれぞれ必要に応じて実施し、市場安定化に努めることが期待されます。

以上

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>